特集

リーダーの条件

Necessary conditions

Part 3

いま活躍するリーダーの心得

新型コロナで需要が減退し、自動車の電動化で産業構造が変わるかもしれない。先の見通しがつかない混沌とする時代に、リーダーはどういったことを心掛け、自らの指針としているのか。時代を切り開くリーダーに考えを聞いた。

魚岸精機工業
魚岸　成光社長

挑戦し、驚きと感動を

革新マインドを忘れず

経営者になって何がしたいのか。突き詰めると「社員の幸せな顔が見たい」ということに行き着きました。それを実現するには目指すべき方向や活動を明確にしなければいけません。そのために「常に刺激あるチャレンジを通じて、社会に驚きと感動を提供し続ける」という中期ミッションを限定しました。

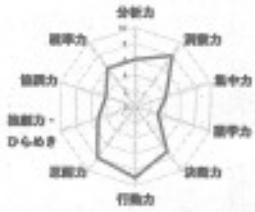
今進めている事業は全てこのミッションに基づきます。例えば無線型金型の開発もその一つ。小ロットで量産と同じ金型を低価格で作る挑戦をしていますが、驚きの価格で実現できそうです。

心がけているのは、柔軟な視点を持ち、頭を柔軟にしておく必要があると思います。

そのためには「外部の方との接点を増やすこと」が重要と思っています。私自身もそうですが、社員にも進めていて、年に1度は展示会や、セミナーいくことを義務付けています。目で見て、耳を聞いて、触って感じなければ分からないことがありますから。

こうした積極的な活動や意識を持ってもらうように「イノベーションスピリット」というテーマも設定しました。イノベーションが必要なのは、金型業界に対する危機感でもあります。

冷静に見て、10年後も金型は存在していると思いますが、金型を作って売るだけの今のモデルでは厳しくなる可能性が高い。だから、金型ノウハウを活かして、お客様の設計から量産までを手ポートする「魚岸プロダクトデザインオファリング（UPDO）」という事業を3年前に立ち上げ、次の時代に備えています。

冒頭のミッションは10年を区切りにしています。中期で10年は長いと思われるかもしれません。しかし、会長が30年以上経営したように、私も10年で代わるつもりはありません。だから、私にとって10年は中期なのです。今から次の20年、30年先のミッションを考え続けています。

能力を自己評価